

文化庁メディア芸術祭 京都展 パラレルワールド 京都

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL in KYOTO "PARALLEL WORLD, KYOTO"

PARALLEL WORLD KYOTO

メディア芸術って何？
パラレル感覚で
楽しむフェスティバル!!

What is Media art?
The parallel world!!

2011.10.29 sat – 11.23 wed

※会場により、それぞれ会期が異なります

Different duration for each exhibition.

「ルネサンス—京都・映像・メディアアート」展

2011.11.11 fri - 11.23 wed 10:00-20:00

※会期中無休 | 入場無料

第一会場 || 京都芸術センター 講堂, ギャラリー北, その他

第二会場 || むろまちアートコート

EXHIBITION: Renaissance - Kyoto, Image and Media art.

OPEN: 2011.11.11 fri - 11.23 wed 10:00-20:00

Venues: Kyoto Art Center Auditorium/North Gallery and more,
Muromachi Art Coat

主催 || ルネサンス—京都・映像・メディアアート 実行委員会

共催 || 京都芸術センター

助成 || 公益財団法人朝日新聞文化財団, 公益財団法人野村財団

協力 || 京都市立芸術大学, 池坊短期大学 むろまちアートコート,

大阪成蹊大学芸術学部, IAMAS,

大阪電気通信大学JIAMS先端マルチメディア合同研究所,

公立はこだて未来大学, 成安造形大学情報メディアセンター

コーディネート || 谷本研 | アートディレクター

京都文化の地域性が生み出したメディアアートの世界のある種の再生(ルネサンス)イベントとして、京都で学び、現在もさまざまなところで活躍しているメディアアート作家、映像作家、そして研究者の新作(映像・音響・照明、コンピュータ等を用いたメディア・インスタレーションや、実験映像、アートアニメーション等の映像)を、約20作品展示・上映。

出品作家

アンドレアス・クレシグ | 赤松正行 | 井浦崇+大島幸代 | 國政展子 | 合田健二十 | 寺山直哉 | 来田猛 | 酒井章憲 | 捧公志朗 | 清水久美 | 高橋三紀子 | 玉木雄介 | 中井恒夫 | 二瓶晃 | 長谷川潔 | 人長果月 | 牧奈歩美 | 水野勝規 | 宮崎詞美 | 宮永亮 | 迎山和司 | 米正万也 |

「共創のかたち:

デジタルファブリケーション時代の創造力」展

2011.10.01 sat - 11.13 sun 11:00-19:00

※月曜日休廊 | 10月10日は開館

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

EXHIBITION: The Form of Co-Creation:

The Reality in the Digital Fabrication Era

OPEN: 2011.10.01 sat - 11.13 sun 11:00-19:00

*Closed on Mondays except 10/10

@KCUA (Kyoto City University of Arts Art Gallery)

主催 || 京都市立芸術大学

助成 || 日本芸術振興基金

後援 || Creative Commons Japan, ほか

本展ではデジタル・ファブリケーションという新しい創造環境におけるアーティスト、デザイナーの社会的役割を再検討します。DIY文化から生まれたイノベティブなプロダクト、ラビッド・プロトタイピング技術を応用したデザイン研究や工芸作品、芸術表現における制作環境の変化などを紹介しながら、次代の「共創」の可能性について探ります。

「京都国文祭『京都映像フェスティバル』

～前衛こそ伝統—京都の映画文化～

2011.10.29 sat - 11.06 sun 10:00-19:30

※会期中無休 京都府京都文化博物館、元・立誠小学校、京都シネマ、他
作品上映およびトークイベントは、下記ウェブサイトでご確認ください。

<http://kokubunsai-kyoto2011.jp/>

KYOTO MOVING IMAGE FESTIVAL: Avant-garde is the tradition

—A History of Kyoto's film culture—

OPEN: 2011.10.29 sat - 11.06 sun 10:00-19:30

The Museum of Kyoto, Former Rissei Elementary School,
Kyoto Cinema and others

主催 || 京都府、京都府教育委員会、

第26回国民文化祭京都府実行委員会、京都府京都文化博物館

京都日本のハリウッドと呼ばれ、時代劇映画を中心に世界でも独特の映画文化を育んできました。今も2つの映画撮影所、映像関係の学部を擁する大学、プロの映像作家などが京都の映画・映像文化を更新し続けています。

京都文化博物館所蔵の映画をはじめとする作品を上映するほか、講演会、ワークショップなどを通じて、文化庁メディア芸術祭と連携して、京都の豊かな映画・映像文化を幅広く紹介します。

PARALLEL WORLD KYOTO

文化庁メディア芸術祭 京都展

パラレルワールド 京都

JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL in KYOTO "PARALLEL WORLD, KYOTO"

主催 || 文化庁

共催 || 京都芸術センター、京都府京都文化博物館、

京都国際マンガミュージアム、

第26回国民文化祭京都府実行委員会

協力 || Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・バルク]、

京都国立近代美術館、

ルネサンス—京都・映像・メディアアート実行委員会、

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

企画 || メディア芸術祭京都展プロジェクトチーム、

吉岡洋 | 京都大学大学院文学研究科教授、

小林昌廣 | 情報科学芸術大学院大学教授、京都芸術センター運営委員、

森脇清隆 | 京都府文化博物館 学芸課映像・情報室長・主任学芸員、

吉田寛 | 立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授、他

事務局

山本麻友美 | 京都芸術センター、山本恵子 | 京都芸術センター、植松篤、他

文化庁メディア芸術祭京都展

「パラレルワールド京都」サポートスタッフ

竹村望 | 千田美咲 | 小倉有紀子 | 松尾夏海 | 塚田知草 | 矢野佑輔 |

富田寛平 | 小池美華 | 印田由貴子 | 石井真理子 | 藤原良子 | 石川恩 | 室達人 | 井

戸真由美 | 内田菜美子 | 朴美華 | 蛭川明子 | 関聖美 |

岩下亜矢 | 森川恵 | 松本めぐみ | 田中瑞紗 | 新田千春 | 田中光輔 |

加藤有希子 | 大西景子 | 和田慎太郎

ORGANIZED BY AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS

CO-ORGANIZED BY Kyoto Art Center, The Museum of Kyoto,

Kyoto International Manga Museum, The Kyoto Prefectural Executive

committee of the 26th National Cultural Festival

PARTNERS: Gallery PARC [GRAND MARBLE, inc.],

The National Museum of Modern Art, Kyoto, Executive Committee for

"Renaissance—Kyoto, Image and Media Art",

@KCUA (Kyoto City University of Arts Art Gallery)

CONCEPT: Media Art Festival in Kyoto Project Team



ここを繋げる～文化発信
第26回国民文化祭・京都2011
平成23年10月29日㊥ - 11月6日㊤



京都国文祭
PR隊長: まゆまろ

@KCUA
KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY
〒605-0851 京都市下京区上田町1-10

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

お問合せ | CONTACT

京都芸術センター KYOTO ART CENTER

604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

546-2 Yamafushiyama-cho, Nakagyo-ku, Kyoto, 604-8186

tel 075 213 1000 fax 075 213 1004

e-mail info@mediaartkyoto.jp

<http://plaza.bunka.go.jp/kyoto>

メディア芸術は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガと様々なジャンルを指しつつも、一貫して私たちの生きている“今”という時代を表現しています。

文化庁メディア芸術祭は、それらの優れたメディア芸術に対し、顕彰と鑑賞の機会の提供を目的に1997年度より開催してきました。本展では、「パラレルワールド京都」をテーマにこれらの受賞作品を含めた多彩なメディア芸術の今日を京都、広くは関西にて紹介します。

テーマについて

「パラレルワールド」は、ある世界と並行して存在する別の世界、並行世界と訳されることの多い言葉です。今回のメディア芸術祭京都展では、「パラレルワールド京都」をテーマにあげています。京都は、歴史的な時間や文化的な影響が重なり合う「パラレル」な都市であると言えます。多くの異なった世界が重なり合い、互いに矛盾せず並行して存在すること。それは、豊かさとしなやかさを育み都市の魅力へとつながっています。

またインターネットやパソコン、携帯電話などテクノロジーの発展によって、異なるリアリティの層をシフトしながら生きることが容易になった現代において、私たちは自分自身さえ複数の自己の重なり合いであると感じているのではないのでしょうか。それは、新しい時代にふさわしい、しなやかな現実感覚であると言えるでしょう。

メディア芸術祭京都展では、テクノロジーの発展とともに可能になった新しい発想や表現を基にした作品、また逆にテクノロジーの発展によって不要になったり忘れ去られようとしているモノやコトを意識させる作品など多様なメディア芸術を展示・上映します。それらを体感することで、メディア芸術の現在、そして私たち自身のありようを考える機会となるでしょう。

お申し込み

事前申し込みが必要なイベントおよび上映会へのご参加を希望される方は、文化庁メディア芸術祭京都展「パラレルワールド京都」公式ウェブサイトからお申し込み下さい。

※一回のお申し込みでお二人様まで受付致します。

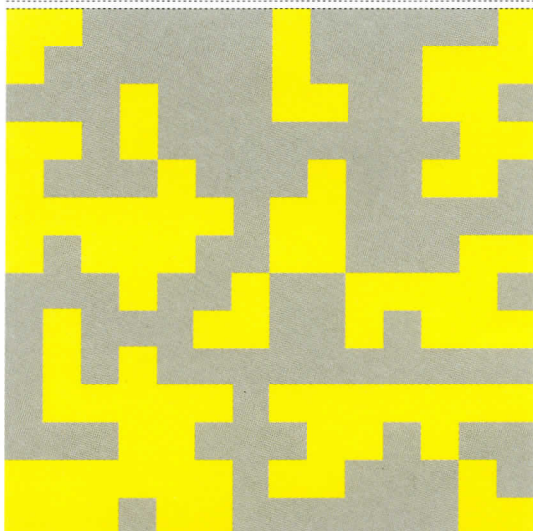
公式ウェブサイト OFFICIAL WEBSITE

<http://plaza.bunka.go.jp/kyoto>

Media art consistently represents our contemporary life while incorporating the genres of art, entertainment, animation, and Manga among others. Japan Media Art Festival, launched in 1997, aims to reward excellent media artwork and to provide a platform for people to view this work. "Parallel World, Kyoto" introduces a wide range of media art including the festival's award-winning works to Kyoto + Kansai audiences.

THEME

"Parallel world" is a term often used to describe another world existing in parallel with this world, and this is the theme for this year's Media Art Festival in Kyoto. Kyoto is a parallel city where historical time and cultural influence coincide. The idea that various worlds crossover and coexist without conflicting with each other cultivates a rich and supple mind and leads to the charm of a city. Also, in this era, when it is easy for us to shift among the layers of different realities thanks to technologies such as computers, mobile phones and the Internet, we are beginning to realize that even we ourselves are layers of various different "selves". That likely leads to a supple sense of reality adequate for this new era. Media Art Festival in Kyoto introduces a wide range of media art work which is based on new ideas and expressions that came into being enabled by the development of technology and which, on the contrary, reminds us of the things that have become needless and forgotten due to the development of technology. The exhibition gives us the opportunity, through experiencing these works, to think about today's media art and our way of being.



京都芸術センター

2011.11.11 fri - 11.23 wed 10:00-20:00

会期中無休 | 入場無料

604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

京都芸術センターでは“パラレルワールド”をテーマに、クワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》など、これまでの文化庁メディア芸術祭受賞作を中心として、元小学校の会場を活かし全館展示します。また、受賞作以外にも八谷和彦《視聴覚交換マシン》、土佐尚子《Sansui Ink Painting》など、メディア芸術の多様性、表現の豊かさを体験できる作品を展示。「ルネサンス—京都・映像・メディアアート」展を同時開催することで京都が育んできたメディア芸術の現在、その独自性と先駆性を展観します。

出品作家

クワクポリョウタ | 田中耕一郎 | 児玉裕一 | 茂出木龍太 | 左居穰 | SHIMURABROS. | 八谷和彦 | 土佐尚子

出品作品について

クワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》

平成22年度(第14回)文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞

光源が備えられた鉄道模型が、床に並べられた日用品の間をゆっくりと移動しながらその影を映しだし、部屋の壁や床、天井に映し出されたモノの影は、電車から見える風景のように移り変わりながら観者を包み込む。没入・鳥瞰、既視感・未視感といった、相反する体験を交互に繰り返す映像作品。京都芸術センター館内にあって、異空間ともいえるホワイท์キューブのギャラリーを生かして展示されるクワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》は、感覚の錯誤ともいえる、パラレルな感覚を体験させる。

SHIMURABROS.《SEKILALA》

平成21年度(第13回)文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞

高度な仮想現実技術で結びついた家族の物語。主人公である父親は、仮想現実でしか家族と接することができない状況に疎外を感じ、生きているという実感や人との関わりに飢えを募らせている。そんなある日、生きたままの動物で出来た家具(パイオファニチャー)と出会うところから、彼の欲求が奇妙な形をとって表面化し始め、物語は混沌とした悲喜劇へと溶解してゆく。科学技術の発展によって変容し続ける生の感覚を通じて新たな実存の可能性を探索する。

イベント情報

八谷和彦《視聴覚交換マシン》体験会

※毎回1時間半程度を予定。 ※申し込み不要、先着順

場所 || 京都芸術センター ミーティングルーム 2

日時 || 会期中の土・日・祝 14:00-、17:00-

※ 11.11.fri のみ 16:00-

アーティストトーク

※申し込み不要、先着順

場所 || 京都芸術センター フリースペース

日時 || 11.11.fri 18:00-

ゲスト || 京都芸術センター会場の出品作家

司会 || 小林昌廣 | 情報科学芸術大学院大学教授、京都芸術センター運営委員

文化庁メディア芸術祭京都展プロジェクトチーム・トークイベント

※申し込み不要、先着順

場所 || 京都芸術センター フリースペース

日時 || 11.20.sun 14:00-

ゲスト || 文化庁メディア芸術祭京都展プロジェクトチーム

司会 || 小林昌廣 | 情報科学芸術大学院大学教授、京都芸術センター運営委員

KYOTO ART CENTER

OPEN: 2011.11.11 fri - 11.23 wed 10:00-20:00

ADMISSION: Free

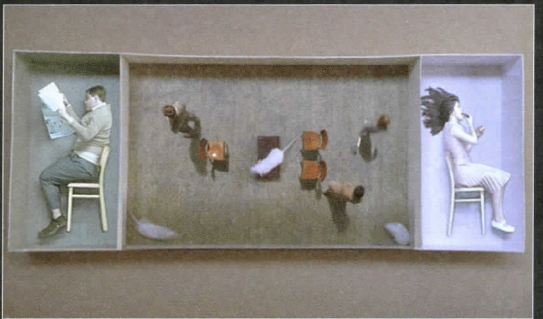
546-2 Yamafushiyama-cho, Nakagyo-ku, Kyoto

Kyoto Art Center introduces the Japan Media Art Festival's award winning works under the theme of "Parallel World", including *The Tenth Sentient* by Ryota Kuwakubo. Maximizing the potential use of space at a former elementary school building, the show also introduces works that exhibit the diversity and profundity of media art, such as *InterDis-Communication Machine* by Kazuhiko Hachiya and *Sansui Ink Painting* by Naoko Tosa. By co-hosting "Renaissance-Kyoto, Image and Media art", the exhibition expresses the originality and pioneering spirit of today's media art, that Kyoto has nurtured.



クワクポリョウタ《10番目の感傷(点・線・面)》 ©2010 クワクポリョウタ

撮影 || 木奥恵三 写真提供 || NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]



SHIMURABROS.《SEKILALA》 Courtesy of the artists and Taka Ishii Gallery



八谷和彦《視聴覚交換マシン》 撮影・黒川未来夫



土佐尚子《Sansui Ink Painting》 <http://bit.ly/aTAuc8>

京都府京都文化博物館

2011.10.29 sat – 11.06 sun

パネル展示: 10:00–19:30

会期中無休 | ※作品上映およびトークイベントは下記スケジュール表をご確認ください
料金: 別館ホール 無料

3Fフィルムシアター 総合展示入館料(一般500円 | 大学生400円)
604-8183 京都市中京区三条高倉

京都文化博物館では“パラレルワールド”をテーマに、アニメーション部門を〈ファンタジーのパラレルワールド〉、〈京都のクリエイター集団が描くパラレル・ワールド〉、〈京都・映像表現のパラレルワールド〉の3つのセクションで構成します。平成22年度文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞受賞作『四畳半神話大系』や京都アニメーション製作による『涼宮ハルヒの消失』などを上映。リニューアルにより最適な映画鑑賞環境を備えたフィルムシアターと、レンガ造りの重要文化財・旧日本銀行京都支店の別館ホールでお楽しみください。

ファンタジーのパラレルワールド

平成22年度文化庁メディア芸術祭受賞作品を中心に、京都文化の魅力を伝える作品を上映とトークセッションで紹介。

『四畳半神話大系』 Aプロ 2010年マッドハウス製作(全11話上映)

監督: 湯浅政明 | 第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞
薔薇色のキャンパスライフを夢見ながらも、無意味な2年間を過ごしてきた大学3回生の「私」。もし、大学入学時に違うサークルを選んで入学していたら…。10のパラレル・ワールドを舞台に、個性豊かな登場人物たちがおかしい物語を繰り広げる。森見登美彦氏の『四畳半神話大系』を原作に、京都を拠点に活動する劇団ヨーロッパ企画主宰の上田誠氏がシリーズ構成と脚本を担当、『マインドゲーム』で第8回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門で大賞を受賞した湯浅政明氏が監督した。文化庁メディア芸術祭アニメーション部門では、テレビアニメとしてはじめて大賞を受賞した。

トークセッション

森見登美彦×上田誠 Bプロ ※要事前申し込み
申し込み多数の場合は抽選。10月20日締切。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

『マイマイ新子と千年の魔法』 Cプロ 2009年マッドハウス製作(94分)

監督: 片淵須直 | 第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞

『カラフル』 Dプロ 2010年サンライズ・アセンション製作(127分)

監督: 原恵一 | 第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞

京都のクリエイター集団が描くパラレル・ワールド

東京一極集中と言われるメディア業界にあって、京都を製作の拠点にして世界的な評価を得ている京都アニメーションを作品と関係者のトークセッションで紹介。

『涼宮ハルヒの消失』 Eプロ 2010年京都アニメーション製作(163分)

総監督: 石原立也

監督: 武本康弘 | 第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門審査委員会推薦作品
クリスマスが目前に迫った冬、普段と変わらない日常を過ごしていたキョンだったが、12月18日は朝から何か様子がおかしかった。親友の谷口とは会話が噛み合わず、後ろの席に居るのはすのハルヒの姿はない。代わりに長門有希に消滅させられ、表向きには転校したことになるはずの朝倉涼子が座っていた…。ライトノベル作品としては過去最高の売上を記録した谷川流の『涼宮ハルヒ』シリーズを原作にして京都に拠点を置く京都アニメーションが製作を手がけた。石原立也氏が総監督を、武本康弘氏が監督を、池田晶子氏がキャラクターデザイン・総作画監督という体制で製作された。

トークセッション

木上益治×武本康弘×石立太一 Fプロ ※要事前申し込み
申し込み多数の場合は抽選。10月20日締切。詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

『天上人とアクト人最後の戦い』 Gプロ

2010年京都アニメーション製作(83分) 監督: 木上益治

『けいおん!』 Hプロ

2009年京都アニメーション製作(テレビ放送より2話を上映) 監督: 山田尚子

京都・映像表現のパラレルワールド

映画・映像のトップランナーを輩出し続けてきた京都。その予備群である京都出身の若手作家を紹介。

『フミコの告白』 Iプロ 2009年製作(3分)

監督: 石田祐康 | 第14回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門優秀賞
フミコは、想いを寄せるタカシに告白するが、あえなくフラれてしまう。泣き叫びながら走りだすフミコ。疾風のごとく、街中を突き抜け、急激な階段を駆け降り、崖から落下し、商店街の空を舞うフミコがたどり着いたのは…。石田祐康監督が京都精華大学マンガ学部アニメーション学科に在学中に製作した、坂道を駆け下るダイナミックな映像表現で魅せる短編アニメーション作品。2010年オタク国際アニメーションフェスティバル特別賞、第9回東京アニメアワード学生部門優秀賞など多数受賞。

トークセッション

作品上映と石田祐康監督による作品解説 Jプロ

『RAIN TOWN』 Iプロ(『フミコの告白』連続上映)

2011年製作(10分) 監督: 石田祐康

THE MUSEUM OF KYOTO

OPEN: 2011.10.29 sat – 11.06 sun

*Panels Exhibition: 10:00–19:30

*See the schedule for film screenings and events below.

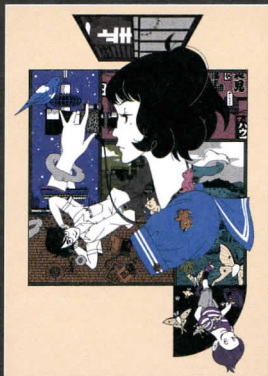
Admission: Free for Annex Hall

For Exhibition Hall and Film Theater:

Adult ¥500, University ¥400

Sanjo-Takakura, Nakagyo-ku, Kyoto

The Museum of Kyoto introduces animated works, including *The Tatami Galaxy*, the grand prizewinner of the animation division at The 14th Japan Media Art Festival, and *The Disappearance of Haruhi Suzumiya*, produced by Kyoto Animation. The exhibition consists of three sections: “Fantasy Parallel World” “Parallel World by Kyoto artists” and “Parallel World in Film of Kyoto”. Enjoy the films with the latest viewing system at the newly renovated Film Theater as well as at Annex Hall, the brick building of the former Bank of Japan Kyoto Branch, an important cultural property.



『四畳半神話大系』 © 四畳半主義者の会



『涼宮ハルヒの消失』 © 2009 Nagaru Tanigawa・Noizi Ito/SOS団



『フミコの告白』 © ishidahiroyasu

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
10.29 sat									E 17:15–	
10.30 sun									D 18:00–	
10.31 mon					A 14:30–					
11.01 tue								I 17:00–		
11.02 wed								D 17:30–		
11.02 wed								H 17:00–		
11.02 wed								C 18:00–		
11.03 thu		G 10:30–	H 12:10–		E 13:30–			F 16:30–		
11.04 fri						I 15:30–				
11.04 fri						G 16:00–				
11.05 sat		C 10:30–			B 13:30–		A 15:15–			
11.06 sun					J 13:30–					

■ フィルムシアター | 定員: 150名
総合展示入場料必要(一般500円、大学生400円)

■ 別館ホール | 定員: 200名 | 無料

※Bプロ、Fプロのみ要事前申し込み。その他は申し込み不要、先着順。

京都国際マンガミュージアム

2011.10.29 sat - 11.23 wed 10:00-18:00 | 最終入館17:30

水曜日休館 | ※11月2日、23日は開館

料金: 入場料(大人800円 | 中高生300円 | 小学生100円)

604-0846 京都市中京区烏丸通御池上ル

KYOTO INTERNATIONAL MANGA MUSEUM

OPEN: 2011.10.29 sat - 11.23 wed 10:00-18:00

*Entrance by 17:30

*Closed on Wednesdays except 11/2 and 11/23

ADMISSION:

Adult ¥800, High school ¥300, Elementary school ¥100
Karasuma-Oike, Nakagyo-ku, Kyoto

第14回文化庁メディア芸術祭マンガ部門の受賞作品である岩明均『ヒストリエ』。岩明均が、マンガ家デビュー以前から温めていた物語より、単行本カラー表紙絵作品6点ほか、一話分の白黒作品を一堂に展示。また、アート部門のコラボレーションとして河地貢士の《マンガ農業》を展示します。好きなマンガ、その中でも忘れられないシーン、そこから生まれる様々な思いを視覚化するかのような芽は、マンガがその鑑賞者へ与える影響や感情を伝えてくれます。

Kyoto International Manga Museum introduces work by Hitoshi Iwaaki including *Historie*, the grand prizewinner of the Manga division at The 14th Japan Media Art Festival. The exhibition also includes work the artist has been working on since before his debut, six colored front-cover pictures, the whole story of one episode and an installation, *MANGA Farming*, by Koshi Kawachi as a collaboration with the art division. Flowering buds grow out of the artists' favorite Manga, especially out of memorable scenes, represents the various emotions a Manga can raise and talks about the impacts and sensations that Manga can bring to readers.

出品作家 || 岩明 均 | 河地貢士

出品作品について

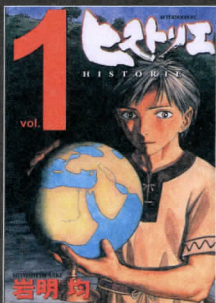
岩明均《ヒストリエ》

平成22年度(第14回)文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞

『ヒストリエ』の舞台は紀元前。異民族スキタイの出身であることを知らず、都市国家カルディアで育ったエウメネスは、ある日養父を殺され、奴隷の身分に落とされてしまう。それが、彼の長い旅の始まりだった……。後にアレキサンダー大王の書記官となるエウメネスの、波乱に満ちた生涯を描く歴史大作。

河地貢士《マンガ農業》

マンガを基本的な素材とし、マンガの好きなページ、思い出のページに種を蒔く、作品に水をやり続け、光に当て続けることによって、そのページの間から植物の芽がでるというインスタレーション作品。好きなマンガ、その中でも忘れられないシーン、そこから生まれる様々な思いを視覚化する。



《ヒストリエ》 ©岩明 均/講談社



《マンガ農業》 ©河地貢士

京都国立近代美術館

ゲームってアートの？ - エンターテインメントのいま・これから

2011.11.05 sat - 11.06 sun

※入場無料。京都国立近代美術館の展覧会には別途観覧料が必要。

シンポジウム、ワークショップは無料。

606-8344 京都市左京区岡崎門勝寺町

THE NATIONAL MUSEUM OF MODERN ART, KYOTO

"The Future of Games -- Between Art and Entertainment"

OPEN: 2011.11.05 sat - 11.06 sun

ADMISSION: Free/ Ticket required for the museum exhibition

Enshoji-cho, Okazaki, Sakyo-ku

エンターテインメント部門の中でもゲームに関する2つのシンポジウム「メディア芸術の中のゲーム——これまでとこれから」、「カジュアル化・ソーシャル化するゲーム——エンターテインメントの未来」を開催致します。また、ワークショップ「ゲームはどうやって動くのか?——ニンテンドーDSと『ブチコン』で遊ぼう!」も同時開催。私たちの身近に存在する「ゲーム」について多角的かつ新たな視点で見つめます。

The National Museum of Modern Art, Kyoto hosts two symposia on the theme of games: "Video games and Media Arts – The Past and the Future", "Casualizing and Socializing Games – The Future of Entertainment" and a workshop: "How Does a Game Run? – Exploring with Nintendo DS and Petit Computer (Petitcom)". The programs aim to cast a new look on the digital games reviewed as an important and evolving form of media art.

イベント情報

シンポジウム メディア芸術の中のゲーム——これまでとこれから

これまで文化庁メディア芸術祭ではデジタルアート(インタラクティブ)部門とエンターテインメント部門で数多くのゲーム作品が入賞してきました。それらを回顧しつつ、日本のゲーム文化とアートのこれまでとこれからを考えます。 ※申し込み不要、先着順

場所 || 京都国立近代美術館 講堂

日時 || 11.05.sat 13:00-15:00 定員 || 80名

パネリスト || 吉岡 洋 | 京都大学、渡辺修司 | 立命館大学、

横山寛 | コンテンツ・プロデューサー

ナビゲーター || 吉田 寛 | 立命館大学

ワークショップ ゲームはどうやって動くのか?

——ニンテンドーDSと『ブチコン』で遊ぼう!

画面の裏側でゲームはどのように動いているのだろうか? 昔懐かしのプログラム言語(BASIC)をニンテンドーDSで動かす『ブチコン』を使い、ゲーム作りにチャレンジすれば、あなたもクリエイターになれるかも?

※当日は『ブチコン』(スマイルブーム社)をインストールしたニンテンドーDSを準備いたしますが、数に限りがありますのでご了承下さい。ワークショップ参加者以外の方にも、その様子をご覧いただけます。(見学に関しては申し込み不要) 定員60名)

※定員20名 要事前申し込み 先着順

場所 || 京都国立近代美術館 講堂

日時 || 11.05.sat 15:30-17:00 定員 || 80名

インストラクター || 小林貴樹 | 株式会社スマイルブーム

ナビゲーター || 吉田 寛 | 立命館大学

シンポジウム カジュアル化・ソーシャル化するゲーム

——エンターテインメントの未来

携帯端末用のカジュアルゲームやネットと連動したソーシャルゲーム、スポーツ感覚で遊べる家庭用ゲーム機の流行で、今や誰でも/いつでも/どこでも遊べるものとなったゲームは、私たちの生活をどう変えていくのか? ※申し込み不要、先着順

場所 || 京都国立近代美術館 講堂

日時 || 11.06.sun 14:00-17:00 定員 || 80名

パネリスト || 井上明人 | GLOCOM研究員、小林賢治 | 株式会社ディー・エヌ・エー取締役、

水口哲也 | キューエンタテインメント取締役CCO

ナビゲーター || 吉田 寛 | 立命館大学

Gallery PARC グランマーブル ギャラリー・パルク

一般公募展: 私のパラレルワールド—世界の誰も知らない私

2011.11.11 fri - 11.23 wed 11:00-19:00 月曜日閉館 | ※入場無料

604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48

三条ありもとビル [ル・グランマーブル カフェ クラッセ] 店舗内2階

Gallery PARC [GRAND MARBLE, inc.]

My parallel world – No body knows about "me"

OPEN: 2011.11.11 fri - 11.23 wed 11:00-19:00 *Closed on Mondays

ADMISSION: Free

Sanjo Arimoto Bld. 2F 48 Benkeishi-cho, Sanjo-Gokomachi, Nakagyo-ku, Kyoto

Gallery PARCでは、一般公募展「私のパラレルワールド—世界の誰も知らない私」を開催します。普段は見せない「ホントの私」。その「私」を「パラレルワールドの私」と例えて、公募した映像作品の数々は私たちの生きる社会におけるパラレルな感覚を伝え、さらにはメディア芸術がもつ身近さを実感させてくれます。

Gallery PARC brings the exhibition: My parallel world – No body knows about "me". Everyone has a side to him/herself, possibly a real side, which they don't normally expose. This exhibition features work that captures such aspects of identity as a persona in a parallel world. These works not only embody our parallel sense of reality in contemporary society but also makes us realize the familiarity of media art.

審査員 伊藤高志 | 実験映像作家、京都造形芸術大学教授

小田英之 | 岐阜県国際情報科学芸術アカデミー教授/学科長

吉岡 洋 | 京都大学大学院文学研究科教授

関連イベント開催予定

詳しくは <http://kyotomm.jp>

もしくはお電話 | 075 254 7414 | お問い合わせ下さい。



神宮丸太町 Jingu-Marutamachi

平安神宮
HEIAN-JINGU SHRINE

京都国立近代美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF MODERN ART, KYOTO

京都市役所前 Kyoto Shiyakusho-mae

三条京阪 Sanjo keihan

東山 Higashiyama

神宮通 Jingu-michi

知恩院
CHION IN

東大路通 Higashi-Oji

八坂神社
YASAKA-JINJA

川端通 Kawabata

木屋町通 Kiyamachi

河原町通 Kawaramachi

元・立誠小学校
FORMER RISSEI ELEMENTARY SCHOOL

祇園四条 Gion-Shijo

建仁寺
KENNINJI TEMPLE

清水五条 Kiyomizu-Gojo

鴨川 Kamo River

寺町通 Tera-machi

ery PARC グランマール ギャラリー・パルク
y PARC [GRAND MARBLE inc.]

新京極 Shinkiyogoku

裏寺町通 Ukiideramachi

河原町 Kawaramachi